

ノウハウを活かして「強い・安い・早い」を実現 足場の会社がつくった農業用ハウス 山梨に6月20日初竣工、異業種に本格参入を目指す

足場をはじめとする仮設機材の販売・レンタルを行うエスアールジータカミヤ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：高宮一雅）は、足場などの開発でつちかった独自の金属加工技術とノウハウを活かした低コストで気象災害に強いパイプハウスでの『低コスト耐候性ハウス』55棟を、山梨県北杜市に2017年6月20日竣工しました。



強風や積雪にも強く、作物の安定供給をサポートする



山梨県北杜市に初竣工した『低コスト高耐候性ハウス』

強く・安く・早く。足場のノウハウで日本の農業をサポート

当社は、足場をはじめとする建設用仮設機材のノウハウを活かし、パイプハウスでの『低コスト耐候性ハウス』を、山梨県北杜市に55棟（総面積約25,000㎡）初竣工しました。

当社のパイプハウスは、当社の連結子会社で仮設機材メーカーのホリー株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：西岡康則）が開発・製造した、強く低コストが特長の農業用ビニールハウスです。仮設機材の開発でつちかった構造計算ノウハウや、独自の金属加工技術により、耐風速40m/秒、耐積雪50kg/㎡（積雪50cm）という高い耐候性を実現しています。

また、建設に関しても、当社が持つ全国60社以上の工事会社ネットワークを活かし、施工コストを抑えながら迅速に対応することができます。

なぜ足場の会社が農業に参入するのか

当社が建設用仮設機材の開発でつちかった技術とノウハウは、多様な事業に応用できるもので、これまでも太陽光パネルの設置架台や木造住宅用制振装置などに活かしてきた実績があります。当社は、TPP協定の発効を間近に控えて、日本の農業にさらなる改革が求められることに着目し、生産者の経営強化の役に立ちたいと考えパイプハウスでの『低コスト高耐候性ハウス』を開発しました。

農業用ハウスはメリットが多く、栽培環境をコントロールすることで品質のよい作物を安定して収穫することができます。しかし、従来のパイプハウスは、台風・突風・大雪などの自然災害に

弱いというデメリットがあります。また、農業従事者の高齢化や離農による人手不足のため、ハウスが倒壊した場合などにすぐ復旧できないという問題もあります。

高い耐候性を持つ農業用ハウスは、これまで、構造材が鉄骨の「鉄骨ハウス」が一般的でした。高度な構造計算が必要とされるため取り組みが難しいとされていた「パイプハウス」で、低コスト耐候性ハウス基準をクリアすることにより、鉄骨よりも軽量化・低コスト化を実現することができます。優良な施設資材の開発・普及を図る協会「一般社団法人 日本施設園芸協会」の構造診断を受けて認証を得ています。

エスアールジータカミヤ株式会社は、『低コスト耐候性ハウス』の初竣工をもとに、今後、農業法人から個々の農家まで、全生産者が抱える生産コストなどの問題の低減に努め、日本の農業を強くする環境づくりに役立てていきたいと考えています。農業分野において、製品開発力はもちろんのこと、仕入れ・生産・施工すべてのコスト面においても、これまで築き上げた仮設機材のノウハウや工事会社のネットワークを活かし、本格的に農業分野への参入を行ってまいります。

【製品概要】

製品名	低コスト耐候性ハウス（寒冷地仕様） （単棟パイプハウス）
設計基準	耐風速 40m/秒、耐積雪 50kg/m ²
基本寸法	間口 6.2m、棟高 3.6m、肩高 1.85m
アーチパイプ	31.8φ500mm ピッチ
フィルム	P0 フィルム



【会社概要】

社名	エスアールジータカミヤ株式会社
代表	高宮 一雅
本社所在地	大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪タワーB27 階
ホームページ	https://www.srg.jp
設立	1969年6月21日
資本金	7億1,477万円
従業員数	452名（連結従業員数1,010名）
事業内容	仮設機材の販売及びレンタル、仮設工事の計画、設計、施工

本件に関するお問い合わせ先

エスアールジータカミヤ株式会社 広報・IR室

担当：川畑

TEL:06-6375-3918 E-mail: pr@srg.jp